

平成28年度第1回酒田市行財政改革推進委員会記録

と き 平成28年7月7日(木)午後2時～3時50分

と ころ 酒田市民会館「希望ホール」3階小ホール

~~~~~

## 出席委員(20名)

|             |             |
|-------------|-------------|
| 富 樫 幸 宏 委 員 | 江 口 暢 子 委 員 |
| 進 藤 晃 委 員   | 齋 藤 直 委 員   |
| 大 壁 洋 平 委 員 | 伊 藤 則 義 委 員 |
| 佐 藤 丈 夫 委 員 | 齋 藤 繁 委 員   |
| 佐 藤 力 委 員   | 小 柴 勝 委 員   |
| 工 藤 吉 郎 委 員 | 小 田 和 夫 委 員 |
| 吉 川 哲 央 委 員 | 高 橋 理 恵 委 員 |
| 阿 部 直 善 委 員 | 山 岸 文 章 委 員 |
| 齋 藤 緑 委 員   | 富 士 直 志 委 員 |
| 本 間 江 委 員   | 石 川 舞 委 員   |

## 欠席委員(4名)

|             |             |
|-------------|-------------|
| 伊 藤 正 佳 委 員 | 佐 藤 和 子 委 員 |
| 三 木 潤 一 委 員 | 若 村 光 司 委 員 |

~~~~~

市側出席者(15名)

丸 山 至	酒 田 市 長	本 間 匡 志	総 務 部 長
永 田 斉	市 長 公 室 調 整 監	阿 部 勉	地 方 創 生 調 整 監
渋谷 斉	市 民 部 長	高 橋 弘	環 境 衛 生 調 整 監
岩 堀 慎 司	健 康 福 祉 部 長	佐 藤 俊 明	建 設 部 長
成 澤 嘉 昭	農 林 水 産 部 長	田 中 愛 久	商 工 観 光 部 長
須 藤 秀 明	会 計 管 理 者	伊 藤 優	水 道 部 長
杉 原 久	議 会 事 務 局 長	桐 澤 聡	教 育 委 員 会 企 画 管 理 課 長
今 野 哲 明	酒 田 地 区 広 域 行 政 組 合 消 防 次 長		

事務局出席者(4名)

熊 谷 智	行 財 政 改 革 推 進 主 幹	金 野 洋 和	行 財 政 改 革 推 進 室 次 長
齋 藤 奈 美	行 財 政 改 革 推 進 室 主 任	佐 藤 創	行 財 政 改 革 推 進 室 主 任

~~~~~

## 次 第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 協 議
  - (1) 酒田市行財政集中改革プランの総括について
  - (2) 酒田市公共施設適正化の取組みについて
5. 閉 会

~~~~~

1. 開 会

○金野洋和次長 ただいまより、酒田市行財政改革推進委員会を開会します。本日は伊藤正佳議員、佐藤和子委員、三木潤一委員の3名より欠席の連絡をいただいております。若村委員からは遅刻の連絡をいただいておりますのでご報告いたします。なお、副会長でありました和田明子委員につきましては酒田市副市長就任に伴い、本年2月10日付で辞任届が提出され、同日付で受理しておりますことをご報告申し上げます。それでは開会にあたりまして市長よりご挨拶申し上げます。

~~~~~

### 2. 市長あいさつ

○丸山至市長 大変遅れまして申し訳ございません。本当は東京から昨日のうちに帰ってくる予定だったのですが、飛行機が降りられなくて、東京から戻ったのが今しがたで、本当に遅れましてもう訳ありません。まず開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。皆様から昨年1年間かけまして、新しい酒田市の行財政改革推進計画、その基本計画と、実施計画を取りまとめていただいたところです。心から感謝申し上げます。この計画は今年から5か年の計画で、今年から取り組みを進めている最中で、これから我々がしっかりと進行管理に努めてまいりますので、次回のこの委員会におきまして、執行状況をご報告させていただきたいと思っております。実は、平成30年以降の酒田市の一番大きな計画であります酒田市の新しい総合計画、その策定作業に今年から入ったところです。2年間をかけて、新しい総合計画づくりを進める、そこで、市民の

皆さんからいろんな意見をいただきたいということで、ワークショップ形式で市民の皆さんが参画する会議を設けました。100名を募集しましたところ120数名の方から集まっていただいて、今、一生懸命、酒田市の将来ビジョンを盛り込んだ総合計画の議論をさせていただいているところです。これは新しい総合計画、その中であっても行財政改革、これは緩めてはいけない一つの指針となるものであると私は思っております。これから策定します新計画の中にも新しい行財政改革推進計画、その中身をしっかりと反映させていかなければならないと思っております。私としては行財政改革も含めて様々な政策の指針としてこの総合計画を作っていきたいと思っておりますし、にぎわいの創出に向けて、人材と風土が支える産業都市、交流都市を作るんだと、それに向けた行財政改革の推進を一つの柱にしていきたいと思っております。皆さんから策定していただいた新しい行財政改革推進計画、それは節約をするという量的な側面もありますが、ひとつは市民同士の連携、協働だとか、質的な地域の変革、そういったものを盛り込んだ新しい行財政改革推進計画になっているはずですので、その着実な推進につきましては、これから酒田市のまちづくりの一つの基礎になると考えているところです。皆さんからはそういった意味で総合計画についても、情報を流していきますので、ぜひ関心を持っていただいて、様々なご意見をいただければありがたいと思っております。今日のこの推進委員会につきまして、後ほどご説明申し上げますが、前の計画の総括について、それから平成26年度から取り組んでおります本市の公共施設適正化の取組みについてご報告、ご説明をし、皆さんからご意見をいただければと思っております。簡単ではありますが挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。

~~~~~

3. 会長あいさつ

- 金野洋和次長 阿部会長からあいさつをいただきます。
- 阿部直善会長 市長のお話にもありましたように、昨年度皆さんから行財政改革推進計画の策定において、分科会も合わせて計5回にわたって委員会で、ご意見・ご提言を頂戴しました。策定に関わったということで、そのことについて感謝申し上げます。市当局におかれましても本間前市長のご逝去、丸山市長の誕生と大変な動きがあった中で、精力的に計画を取りまとめていただいたことに敬意を表したいと思います。皆さんから策定に関わっていただいたこの計画、アクションプランといわれる実施計画、これをローリングしながら市で進めていくこととなります。次回以降、進捗状況につきましては、ご意見・ご指摘をいただきたいと思っておりますので、その時はよろしくお願い申し上げます。市当局におきましても量だけでなく質ということですので、質・量ともに、目標の明確化、あるいは実現に向けて市民の期待に応えられるよう取り組んでいただきま

すことをご期待申し上げます。本日は、我々が策定に関わる前の計画の総括と公共施設適正化の計画について協議してまいりますので、皆さんから活発なご意見・ご指摘を頂戴できればありがたいと思っております。終了時間の目途は3時半ということですので、皆さん並びに市当局のご協力をお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

~~~~~

#### 4. 協議

○金野洋和次長 次第に従い、協議に進ませていただきたいと思います。大変恐縮ではありますが、ここで資料の訂正をお願いします。資料の1、15ページ。市税等の収納の効果額、441,329千円を440,129千円に訂正をお願いします。お手間を取らせてしまい大変申し訳ございません。以降の進行については、会長よりお願いします。

-----

##### (1) 酒田市新行財政集中改革プランの総括について

○阿部直善会長 それでは協議に入ります。最初に次第の(1)新行財政集中改革プランの総括について、事務局から説明をお願いします。なお、説明が終わった後に前の計画の総括ということですので、皆さまお一人お一人からご意見を頂戴したいと思います。あらかじめお心置きいただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○熊谷智主幹 (資料に基づき説明)

○阿部直善会長 前計画について、お一人お一人からご意見をいただく前に、説明の中で確認したいことがあれば最初にお受けしたいと思います。ご質問等はございませんか。

○工藤吉郎委員 金額が表示されていますが、これは具体的には財政的に浮いた金額でしょうか。

○本間匡志総務部長 金額の削減額は、例えば売り払い収入であれば収入として挙がっている部分、歳出が削減されている部分、これを合わせた額ととらえていただければと思います。

○齋藤緑委員 人件費の定員管理の適正化のことで質問したいと思います。75人が5年間の職員削減数、これは自然減ということなのかということと、新しく雇用された人とはどのような関係になっているのか。それを差し引いてこの効果額が出ているのかと思うんですがどうなのでしょう。

○本間匡志総務部長 定員管理の適正化ですが、これは平成22年度職員数から比較して75人の削減ということで、新しく入った方を差し引いた形で、実際の定員が75人削減

されています。こちらは主に技能労務職の方、保育士の減ということで、こういった職位の不補充で減が出ているところです。学校統合もいくつか実施しております。それと保育園の民間委託行った結果、技能労務職、保育士を補充しなくても良くなったということで、減になったということです。

- 阿部直善会長 それ以外の職種はいかがですか。
- 本間匡志総務部長 一般の職員は、基本的に維持する形でやっております。
- 山岸文章委員 改革項目3の学校施設の跡地利用の検討についてですが、達成状況は「概ね達成」と表示してあります。この「概ね」というのは、成果の欄にない部分がまだ達成できなかったために、「概ね」という評価になったのか。それとも、市内を見渡してみますと中心部にあります旧酒田商業高校グラウンドおよび校舎、そして北側にある旧酒田工業高校、旧酒田北高校の跡地利用の動きが見えないものですから、その辺をどのようにお考えなのか。その部分ができないために「概ね」という評価になったのか。その辺を教えてください。
- 阿部直善会長 その他関連する質問等がありますか。
- 小柴 勝委員 先ほどから説明していただいているこの成果が、市の財政全体に対してどのような効果が出ているのか、どういう数字をみたらわかるんでしょう。個々の達成率、効果は分かりますが、財務状況がこれによって良くなったというのは、評価が出ていないんですか。
- 本間匡志総務部長 まず、学校施設、施設跡地の利用の「概ね達成」の意味合いですが、確かに跡地利用の検討ということで、具体的に旧東平田小学校の校舎跡地を公園として整備する、あるいは旧高畑中学校は、山村広場を拡張して整備するなど色々やってきました。残っている北平田小学校の跡地は今年着手します。中平田小学校は跡地まだこれからというところです。港南小学校もまだですが、これから跡地利用を検討することで、「概ね達成」ということにしました。それから全体の影響額を小柴委員からお伺いありましたが、確かにこれは一つ一つの項目についての効果額になります。ですから、酒田市全体でどうなっているのかという検証等はなかなか難しいと思います。ただ、この全体のバロメーターが何か見てみますと、例えば、借金、起債の残高がどうなっているのか、それから基金、貯金の残高がどうなっているのか、あるいは、財政の弾力性がどうなっているのか等、財政指標を出しております。例えば、実質公債費比率というどれだけ借金をしているのかという比率は、平成22年度は11.9%、平成26年度は10.0%と少し改善が見られます。それから基金残高は平成22年度106億円、平成26年度では127億円で、貯金も少し増加している状況です。残念ながら地方債残高は平成22年度で611億円、平成26年度で640億円と、少し膨らんでいますが、これはさきほど実質公債費比率が少し改善していると申し上げましたが、合併特例債などの良質な起債、交付税措置がある起債を借りているということから、実際の比率は改善しているという状況が見て取れます。全体的には、一つの尺度として先に述べた指標があり、今回の20数億の削減については、各項目についてはこれだけの効果があったとしか言えないとこ

ろです。

○丸山至市長 実は我々の、特に副市長は行政評価の専門ですから、このまとめを作るにあたって内部で議論させてもらいました。さきほども室長も説明しましたが、資料の1ページの真ん中付近に、まさに小柴委員が質問された、その取組みが20数億の効果がトータルコストを含めてどのように効果的、効率的な行財政に寄与したのか、その辺をもう少しわかりやすくきちんと市の財政全体を見て示す必要があると思っております。具体的に言えば、さきほど斎藤委員から職員の減の話が出ました。職員は減って、人件費は減りますが、日々雇用職員という臨時的な職員の分は、人件費じゃなくて物件費に入っています。だから人件費が減ったけど、逆に言うと物件費が増えたかもしれない。今は多角的な見方ができていない。評価のあり方としては一面での評価にしかないので、20数億が全体としてどうなのか。経常収支比率、常に支出しなければならない収入と費用の比率が少しずつ上がってきています。これは財政が膠着化、融通が利かなくなってきた、それから自由に使えるお金が少なくなってきたということですが、その辺も含めてきちんとした評価をすべきだろうと私どもは思っております。そういった意味では、これは終わってしまった評価になっていますが、分析指標というのがまだ内部的に確立されていない、それが今年から動いている新しい計画にあたっては、きちんと評価できるようなそういった評価を組み込んで、皆さんにはお示しして、きちんとした評価、例えば外部評価をそういう視点でもって示してもらおう、いろんなデータから本当に効果がどれだけ出たのか評価をしてもらう必要があるのではないかと思っております。そういう意味では、前計画の評価については、1ページのところにありますが、評価の視点で欠けているところがまだあるということ、この中で整理をしていただいて、今動いている新しい計画、この評価にあたっては反映できるように我々も頑張っていくますし、皆さんからも意見をいただければと思っております。ご指摘はごもっともです。

○阿部直善会長 今、市長から率直な話も含めて見解をいただきました。もし質問等あったらご自分の発言の中でしていただくとして、事前に資料もいただいていたので、目を通して来られた方はそれを踏まえて、ご意見を簡潔にお願いします。それぞれおっしゃったについては後でまとめて所見をいただければと思います。議会選出委員の富樫委員からお願いします。すでに発言された方は自分の発言権がなくなったわけではありません。それではお願いします。

○富樫幸宏委員 日ごろから行政の皆さん方から大変なご努力をいただきまして、こういう報告をいただきました。敬意と感謝を申し上げます。そこで、今、日本は経験したことのない高齢社会、人口減少社会、昔は、市民の皆さんも行政に頼めばすべて行政にやっていただいたという時代は間違いなくあったと思います。昔の市の幹部の皆さんが市民の願いは星の数ほど、と表現をされておりましたけれども、それを次から次へと解決して、解消していただいた時代も確かにありました。けれども、今は、そしてこれからは、さきほど申し上げましたように、高齢社会、人口減少社会ですから、そ

れをすべて叶えるというのは至難の業の時代になったと思います。そんな中で、行財政改革という取組みが出てきたわけですが、行政の皆さんが、日々努力をしていただいで、税金を正しく、そしてできるだけ無駄遣いをしないでやっていただいでいることは十分承知をしておりますけれども、それだけでは賄いきれない、そういう時代になっていくのではないかと感じております。その中で、考えていかなければならないは、さらなる地方自治というよりも住民自治ではないかと思うんです。市民の皆さんが、自らやれることはやらなければならない時代になっていくだろうと思います。ですから、そこを市民のみなさんにもよく理解をしていただかなければ、その体制が作れないと思いますので、行政の皆さんの取組みは大変結構ですが、これから市民の皆さんの意識をそちらに向けていくという努力もこれからもっと必要になっていくのではないかと感じております。そうしませんと「酒田に住んで良かった」という街にはならないのではないかと感じております。確かに数字的にこの位削減したとか、抑制した数字は出るのかもしれませんが、人の気持ちですから、それだけではなく、自分たち自らやったという気持ちを持ちながら、住んで良かったという街にしていかなければならない、そのためには住民の皆さんの意識改革ということも念頭に置かなければならないと感じているこの頃です。ぜひその方向でご努力を続けていただきたいと願っております。以上です。

○江口暢子委員 社会情勢が変化する中で、様々な厳しい局面を迎えられる場面も多いと思います。そういった中で、避けることはできない行財政集中改革プランの総括、このように提示していただいたこと、一つ評価できるものであると思います。こういった可視化がとても大切ではないかと思ったところです。この可視化をすること、そして市民にお示しすることで、次に着手することができる、そのような手順の第一歩なのではないかと思っています。ただ、削減ではなくて、市の前進のための効率化であり、行政における質が高まること、それが求められていると思います。市長がおっしゃいました多角的な見方が、そこが大事だと思っていました。職員が減ったけれども日々雇用職員はどうか、業務量が増えているんじゃないか、統合しましたし、様々な課題が出てます。業務量はあっているんだろうか、そういった多角的な視点、いわゆるマクロな視点、ミクロな視点、そういったところの評価の中身を精査する、評価したからそこで思考停止に陥らないことが大切だと思っています。新たな未来のための投資であると、行革がそういった投資であるという位置づけになることを期待して終わります。

○進藤晃委員 当局の皆さんのご努力によりまして、目標の103.3%達成ということで、目標を上回る形で達成できたことに敬意を表します。先ほどもありましたけれども、人口減少、少子高齢化という時代の流れで、避けては通れない計画推進であると当然ながら感じております。多様化する市民ニーズにいかに対応していくかということが問われるわけですが、一つ一つの項目をご説明いただきましたが、表現方法として達成、未達成とございましたが、ちょっと抽象的な表現方法なのかな、と。あるいは一つの事業に対して、方向性が決まったという結果の示し方で、この事業に対して、今後は実施をしてどのように進捗管理をしていくかというところが大事だと思っているところです。です

ので、これで終わったという状況ではないわけですので、法律的、効果的などころを今後ともより一層努力していかなければならない、その辺は新しい行財政改革推進計画の中で盛り込まれているものと思っております。今後とも進捗状況を管理しながら、確実に実施をしていただきたい、PDCAサイクルを的確に実施していただきたいと望みまして終わります。

○齋藤直委員 先に3名の方からもお話ありましたが、まずは目標額に対して103.3%の実績が出たことは当局の皆さんの努力の表れが見えたと思っております。そのなかで、二つだけ感じたことがあります。学校施設の今後の検討ですが、今後も学校統合の話もあります。その中でも、地域住民の方とよく話し合いしながら進めていってほしいと思います。もう一点は、八幡病院のあり方の検討についてです。達成状況は「達成」となっていますが、実際、現場ではまだまだ地域住民との話し合いも詰まっていないと思っております。ペーパー上では、平成28年度以降に地方独立行政法人の経営統合による対応を進めたいと「達成」というところではありますが、今年の2月頃からでしょうか、地域住民との意見交換会も始まっていますし、また今後も、地域住民への説明会の話も聞いています。こちら地域住民としっかり話し合いをしながら、理解できる八幡病院の検討を進めていってほしいと思います。行財政改革は、ぱっと考えるといくら削減したと数字が出て良かったところもあるのかもしれませんが、時には、思い切った投資、行動をすることも必要と思います。ぜひ、生きているお金の使い方をしっかり考えてほしいと思います。以上です。

○大壁洋平委員 行財政改革は市長が副市長時代から力を入れてきたということで、このような良い結果になり、評価しております。先ほど4名の委員のお話でもありましたが、やはり数字だけに捉われるのではなくて、これからどういう風にやっていくのかという検討が大事だと思います。26億の効果があったとありましたが、財政の中期展望、長期展望を見ましても、難しい状況だと思いますし、やはりこれから大変になっていくんですね。今これだけ頑張って26億円の削減をしましたが、これからもっと削減をしなくては行けなければならないわけですので、これからもっと頑張っていただきたいと思えます。それから若い職員の業務改善の勉強会を積極的に開催されているとお聞きしております。その発表会も去年、一昨年も見させていただきました。とてもおもしろく、頑張っている姿を見られましたので、市民の皆さんにも一生懸命PRしていただいて、行財政の改革の推進をしていただきたいと思えます。以上です。

○伊藤則義委員 21ページに土門拳記念館、酒田市美術館、酒田市体育協会、公益財団法人に認定されたということで達成となっているんですが、上の二つについては、私が理事をさせてもらってしまして、土門拳記念館については、中身が有名でほかの市に対しては立派ですが、酒田市民の使用頻度が少なく大変苦労していると聞いています。先ほどからありましたが中身を含めた検討が必要だと思います。以上です。

○佐藤丈夫委員 大きな課題をスリムにしていくことは大変な作業だということは、理解をしています。行政当局の方々の努力へは敬意を表します。その中で、数回の会議の中

で、少し申し上げましたのは、酒田市は今、色々なことをやっておられますが、観光に大変力を入れていると見受けられます。新聞紙上によると、チャーター機を誘致する、大型客船を誘致するという記事を目にします。しかし、そういう大変な努力で大きな効果が得られるだろうと思うのですが、受け皿はどうなんだろう、と。大型客船の方々が港に降りられて、一体どこに行くんだろう、どこに連れていくんだろう、と。それは土門拳記念館を含めて酒田市には色んな施設があります。お土産はどこで買うのかという、どこにでもある店では困るわけです。酒田市の特徴となる、その象徴は、古い歴史から見れば中町だと思います。今日も中町のあるお店で話を聞いてきましたが、次にパトタッチができる店は、指折り数える程度だとおっしゃっていました。経営の問題、お客さんの少なさもあると思います。そこで古くからある酒田の文化とか中町で活かされていないお店が何軒かあります。せつかく大勢のお客さんが来ていただけるのであれば、酒田から何を買っていってもらいたいのか、そういうことも含めて受け皿づくりというものが、収入源につながっていくのではないかと考えています。この前、テレビで見ました阿部弥太郎商店のおばあちゃんが畳の縁で作った名刺入れを販売している、大変良いことだと思います。でも阿部弥太郎さんだけ頑張ってもらっても、他の歴史ある店もありますが、天地の差ぐらいに元気がない。これを行政はどう見ているのか、観光パンフレットにも全く載っていません。その辺も含めてご検討いただきたいと思っています。それから二つ目は、高齢者、65歳以上なんでしょうが、生産ができる計画、これは非常に大事だとあちこちで訴えてまいりました。給料が高くなくていいはずです。元気をもって生産性に寄与できるような形が何かほしいなど。これは商工会さんをお願いすることなのかもしれませんが、行政としても考えていただけたらと思います。最後に一点、私どもの仲間の飛島ですが、戸数が約2割減っています。昨年120数戸あった戸数が100戸になりました。飛島で市にお邪魔して懇談させていただくのですが、どの部門が飛島について責任を持っておられるのか、私には見えない。ジオパークも含めていろいろな地図も出てきますが、ぜひ、山形県ただ一つの素晴らしい島ですから、定期航路の見直しも含めて前向きにやっていただければと思っています。以上です。

○齋藤繁委員 私からは、総括については皆さんから出していただいたとおりですので、言いません。八幡病院のあり方については、八幡自治会長会で市長あてに要望書を提出したとおりで、要望書どおりの意見がいただけまして、今現在、推進委員会を立ち上げて進めております。来週からは2回目の地域説明会が行われますので、推移を見守りながら、市と話し合いながら、あまりあせらずゆっくり考えながら進めていきたいと思っていますので、よろしく願いしたい。もう一つ、ジオパークについてですが、ジオパークの本質を伝えきれてないのではないかと私は思っています。本当は住民参加をして、地域の活性化につながって、それを継承していく子どもたちを教育していくような、そういう色々な面を絡めたものがジオパークだと私は理解しているのですが、それが何か違ったほうに行っているようで、色々な講習会を聞いていますが、あれでは地域住民が参加し辛いです。専門の人が専門の講習会を受けてくれば良いことであって、そもそ

もジオパークのとらえ方と違います。今日、委員の市会議員さんもいらっしゃいますので、私からお願いしたいのは、市会議員さんの皆さんも、自分の地域と直接関わりがないからなのかもしれないですが、ジオパークについても市の政策としてやっているの、顔出しぐらいはして一緒になって、営業マンになって覚えてほしい。それが全くないです。酒田市の市会議員さんの顔を見るのは、鳥海山の山開きのときぐらいです。そういう状態で、市民の声なんて聞こえていきません。この辺は市長さんのほうからも、そういう話が出ていることを、一言声をかけていただきたい。私のほうからは以上です。

○小田和夫委員 一番心配なのは、数字に表れない施策の観点、市長も言っていましたが、いろんな面があると思います。私は特に文化創造都市、それから観光、交流人口を増やそうというときに、文化創造都市、これをぜひ構築していただきたい。昨年丸山市長になってからですが、市長公室の新設、それに伴って都市計画課の廃止、これを目指すならば、特に市長公室では、文化創造都市を目指した、人材の開発や育成を、数字に表れない影の施策を推進していただきたい。もう一点は、光丘文庫、市の大きな財産だと思いますが、活用の仕方、存続の仕方、財産をどのように活用して市民とともに、誇れるものにしていくか、これも行政指導の一番大きい目標だろうと思います。ぜひ、その点を留意して今後も効果のある財政改革をお願い申し上げます。

○石川舞委員 私のゼミでは主に保育や介護のディスカッションをすることが多く、その時にマイナス面として、需要と供給が合っていない、仕事量と給料が合わない、離職率が高いなど、悪い面ばかりが挙がってしまいますが、この内容の達成を見た時に、水準が向上していたり、サービスが向上していたり、入所児童が確保できているなどプラスの面も多くあるので、もしこれからも統合、民間移管を増やしていくのであれば、こういう良い面をアピールすることで効率よく増やしていくことができると思います。以上です。

○本間江委員 今まで皆さん、報告書の内容、非常に素晴らしいとおっしゃっていましたが、私はまったく見方が違います。これでは全然足りません。単年度にして約5億円という金額ですが、市の広報を見ますと、だいたい26年度普通会計の決算、黒字18億8千万円なんです。繰入金が26億1千万円、起債が46億2千万円で、72億3千万円なるわけですね。ですから真水というか、実際の繰入金と起債を省くと、だいたい53億円以上のマイナスです。これがずーっと続くわけです。で、53億円マイナスなのに、単年度5億円削減しました、103%出来ましたとおおいばりされても、いかなものかだと思います。財政指標も市の広報に載っていますが、すべての項目で類似団体より悪いという結果です。結局何が言いたいかというと、目標地点が現状に合っていないです。できることを目標にして、出来ましたではだめなんです。やらなくてはいけないことを目標にして出来ました、でなければ市民は救われません。持続可能な財政基盤の確立という目的からすると、全く出来ていないです。いくらでも起債出来ますというわけではなく、借金ですから利息も払わなくてははいけません。繰入金というのは、基金の取り崩しだそうですが、これも今年の3月にいただいた財政中期展望からすると、だい

たい平成30年で最後になってしまって、それ以降は取り崩すべき基金自体がなくなってしまうという状況なんです。もっともっと危機感をもって事に当たっていただかないといけないと思います。以上です。

○**富士直志委員** 生涯学習施設の運営と教育委員会の評価にも関わっていますので、そういう観点から二つほど感想を述べます。今回の5年間で学校給食と、病院の経営が未達成と書いてありますが、学校給食の業務委託は、状況が可能であればと、慎重にやってきたのかなと読み取ったのですが、給食は命に関わる問題で、最近では食物アレルギーの問題もありますし、また地産地消ということで地元のを子どもたちにたくさん食べてもらう、といっても内情を聞きますと、そんなに季節ごとに地元のものがたくさんあるわけではありませんので、季節や天候に左右されることがあるようです。ですが、地元のを食べてもらう、それを子どもたちに伝えるという努力を続けてきているわけですが、そういう質を落とさない、小学校の時は美味しかったけれども、中学校になったら美味しくないというのはまずいです。そういう味のレベルを保つということも大きな問題で、これは委託する場合でも、慎重に、条件をきちんと守ってもらうことが、質を保つには大事なことだと思いました。病院の問題ですが、八幡病院に限らず、高齢化で多くの方が病院にかかっているわけですが、この前衝撃的なデータを見ました。中央公論の月刊誌に、がんで死亡する率の地域別データが載ってまして、酒田市は男性の胃がんの死亡率が、全国300ぐらいの地域の中でワースト10に入っていました。ですから、健康の質、寿命の質があるわけですので、市民の命をどう守っていくのかという観点も、こうした問題の中には必要になってくるだと思いました。市民が健康で、長生きできる環境を踏まえながらこういった問題を解決してもらいたいと思いました。以上です。

○**山岸文章委員** 第3セクターの見直しということで、公益財団法人化への支援、土門拳記念館、市美術館、市体育協会、それぞれ、公益財団法人への移行が達成されました。これはあくまでも表向きであって、土門拳記念館さん、酒田市美術館さん、市体育協会の次期体制、財源の状況を見ると、比較にならないと私は日ごろから感じておりました。公益財団法人に移行されるまでは、市当局から手厚いご指導のもと、無事移行できたわけですが、これ以降、スポーツで活気あるまちづくりに大いに貢献していきたいと思いますので、市体育協会に対する公益財団法人に移行したメリットのあるご配慮をぜひお願いしたいと思います。以上です。

○**齋藤緑委員** 私は今、NPO法人と株式会社を運営していますが、その観点から見ると、さきほど公募委員の本間さんがおっしゃっていたことと、全く同意見です。これで酒田市は大丈夫なのかと思います。貯金がなくなったら借りればいいんでしょうか。行政だと起債を起せばいいのですが、民間企業ならつぶれてしまいます。昨年度の決算が出ているわけですので、その経営分析をきちんと行って、どこが達成されているのか、改革がどこまでできるのか、数字的にも出していただけたらと思います。私たちの運営している団体の目標も人の幸せを目指しています。酒田市も当然、住民の幸せ、生活の質

の向上を目指しているわけなので、すべてがお金の計算でできるとは思っていません。例えば第3セクターの見直しや、民間委託の推進とおっしゃっているんですが、目標額と同額というのはどういうことか、これは目標が手堅いところで、達成されているという見方ができると思います。昨年度の行革の中でも、民間委託への推進や、市民との協働があって、その協働のところに手厚く投資して、市民を育てていく、市民と一緒にやっていくところをうまく推進していくことで、人件費もいずれ削減されていくと思われまます。子どものお手伝いと同じで、最初手やお金はかかるんですが、お手伝いをさせなければ自立していかないわけです。自立していけば、お父さんやお母さんの手から離れて行けば、負担は減っていくわけですので、そう考えると、市民との協働に力を入れていけばと思います。人件費の削減が一番大きいと思いますので、ただ人を切れば良いという話ではなくて、そこは自然減で補充はしないというのは、組織としてどうかと思われまますので、新しい人は入れながらも、人材は減らしていくという、そういう人件費の減らし方をしてはどうかと思います。今、世の中では断捨離といって、私たちも生活の中で断捨離をしています。断捨離というのは、ただ捨てたりやめたりするだけではなくて、新しいスタートにしていくことで、行政でいえばスクラップアンドビルドですので、各課で、今やっている業務が本当に必要なのかどうかの洗い直しをもう一回してみてもどうかと思います。それが、各職員が抱えているもので、職員の方もこんなものいるのかなという仕事がきっとあると思います。課の中でも議論して、新しい施策、提言については募集していくとか、そういうところが職員の資質の向上につながるかと思われまますので、よろしくお願ひしたいと思われまます。頑張れば良いとか、一生懸命やっているのは皆同じなので、結果をとにかく出さなければいけないという、もう少しはっきりしたビジョンを抱きながら仕事をされてはどうかと思われまます。以上です。

○高橋理恵委員 改革項目6番「市税等の収納率の向上」ですが、収納率そのものはコンビニ、郵便局での収納で、収納率は上昇したんだと思われまます。これから人口減少が進む中で、市税そのものが少なくなっていくのは見えていることだと思われまます。その中で、外からどのようにしてお金を落としてもらおうかを考えると、誘客、観光のところで誘客することが挙げられると思われまます。旧市内の観光マップを見ても、中町を中心に書かれています。旧3町については若干少ないのではないかと思われまます。そういった地域にも積極的に足を運んでいただくような取り組みが必要かと思われまます。市観光振興課さん、観光物産協会さんはそれぞれ立場的なものもあると思われまます。連携という部分がちょっと見当たらないかなと、私どももいろいろと話をしておりまして、感じるころがあります。商工会もそうですし、観光物産協会、観光振興課とで、全体像が見えるようなマップを作っていないと、誘客そのものが出来ないかなと感じるころがありました。外からお金を落としてもらおう仕組み、一人一人の市税を上げていくころが必要と思われまますので、今後の取組みとして考えていただければと思われまます。以上です。

○吉川哲夫委員 民間企業は地域に貢献するということと、従業員の幸せと願って日々生産活動を行っています。そのためには利益を上げなければならないということですが、

その点、行政は難しいのかなと感じます。しかし、人件費は市民が減れば当然減るわけで、この数値のくくり方は問題なのかなと思います。民間企業であれば、5年先、10年先、毎年度はこうあるべきともう少し具体的に、赤字が10億あれば、12億削減するという細かな数字を作ってやっていくわけです。産むお金はあると思うんですが、反対に削減すべき項目は何かというのが見えると思います。その辺をもう少し、この会で先立って指針を出していただければ、もう少しやりやすいかと思います。よろしくお願ひします。

○**工藤吉郎委員** 委員の皆さま方からいろんなご意見が出ております。私が常々感じていますのは、やはり酒田を元気にしていくということも、それも行財政改革プランの一つだと思います。今一番問題になっているのが、少子高齢化で、人口が減れば、当然収入が減ります。市長も人口減少に対して、子どもたちの医療費無料化とかいろいろ取り組んでいます。ただ言えることは、いかに若者を地域に定着させることだと常々思っています。市長もおっしゃっていますが、若者が定着するには、企業誘致、または現在ある企業さんに色々アイデアを出してもらうことも大事でしょうし、やはり交通インフラ、新庄延伸という問題もあります。こういったことも含めまして、行財政改革と離れるかもしれませんが、必要なのかなと思います。もう一点、今コミ振連と旧公民館地区、飛島を含んだ13地区は、人口減少、高齢化が進んでおり、若者がどんどん市街地に来ているという傾向があります。それはなぜか、ということをもう少し考えなければならぬと思います。一例を挙げるならば、農村地区は風習や、色々と地域で様々あるということも一因なのかなと思います。これから地域は市当局と一緒にあって取り組んで改善を図る必要があると考えているところです。

○**小柴勝委員** 委員の皆さんの話を聞きながら、ちょっと気が付いた点、3点ほどあります。行財政改革というと、なんでも節約、削減で話が減ってしまうんですが、もっと前向きの行財政改革を考えたらいいと思います。今天真グラウンドが民間で開発しておりますが、これから売出されるわけですが、今までは学校の所有ですから、税金はなかったわけですが、それが民間で買い取って、そこを宅地造成して分譲するわけですから、税収は増えるし、そこに人が住めば、固定資産税も入るわけです。特に民間の開発ですので、我々コミ振としてどう関わるのか難しいのですが、業者はハウスメーカーと手を組んで売り出そうという計画のようです。ハウスメーカーは全国規模ですので、外から買いに来る人もいます。そういう話もありますので、ぜひ積極的なところも活用して活性化を図っていただきたいと思っています。全部売れば、だいぶ人が増え、その地区は活性化します。消費税が上がらなかつたからけっこう申し込みがあると思っています。もう一つは、先日東栄町の三角公園の桜をライトアップしました。私も行きましたが、なかなか良かったです。ライトアップはそこだけじゃなくて、新井田川にもありますよね。それで、汽車から見えるところもライトアップすれば、酒田市以外の人も見るわけですから、そういうことも考えて、これから新幹線を引いてくる上で、そういう力の入れ方もあると思います。それから、駅前ジャスコ跡の駅前開発の姿が見えて来

ましたが、昔は駅前というと、鉄鋼会社とか大きい会社がありましたので、新町の方まで歩きました。今は駅前の店が閉まっていて面影はないわけですが、もう少し、地元の民間の力を借りて、地元のおいしいラーメン屋とか、いろんな企業が入って、駅からキューリ天王さんまで歩くようにしたら良いと思っています。行財政改革とは違うかもしれませんが、そういう感想を持っています。

○佐藤力委員 行財政改革推進委員を2年間努めました。2年前、このことは改めて、いま急に始まったことではないと申し上げました。これはそれぞれの状況に応じて、市民と行政がどういう風に連携を図って、その地域の活性化を図ることが重要だと思います。当然、民間の症例を見ながらやってきたはずですが。私は市民サービスも当然ですが、財政の状況を鑑みますと、いわゆる受益者負担、ごみの有料化も唱っておりますが、これに留まらず、人件費の削減もあるわけですので、その辺を調和して市民の皆さんの理解を得る、それで財政の指標を何年スパンでお示しをすることが使命かと思っています。あとひとつは、施設を点検整備して、去年はいくら、これでまでトータルでいくらという形で財政に反映したかと思っています。現状では平田管内、砂越の楯野内に診療所がありますが、我々が草刈りを当局に電話して、速やかに刈っていただきましたが、この施設の活かし方です。建物は人が入らないと荒れてきますので、いずれこういうものが酒田市全体であるかと思っていますので、逆に維持管理費がかかっておりますので、売却処分するのかなど、全部精査して、できれば次回にでもできる範囲で我々にお示しいただいて、我々に協力できることはしたいと思っています。こういったことも現実としてありますので、行政の範疇で1つ検討していただきたいと思っています。

○阿部直善会長 ありがとうございます。ひと通りお話しいただきましたが、予定時間が過ぎております。そこでこれからの時間の進め方ですが、時間を延長させていただきます。今、色々な角度からご意見が出ましたので、当局からコメントいただいて、その後公共施設の適正化に入ります。では、当局でどなたかお願いします。

○丸山至市長 皆さまありがとうございます。頭が非常に痛かったです。皆さんの発言全て真剣に受け止めさせていただきました。とりわけ本間委員、齋藤委員からありましたが、もっと危機感を持ってだとか、目標設定が甘いとか、要するに到達できるような目標しか立てていないとか、経営分析をもっとやりなさいという話もありました。おっしゃるとおりだと思います。役人の目線ではなく、評価する市民の目線で目標を設定し、それに向かってどれだけやって達成出来たのか出来なかったのか、あるいは市民サービスが向上したのか向上しないのか、その辺を明確に評価として出すべきだという思いを持っております。その上で、先ほどから出ていますが、市全体の財政、あるいはまちづくり、市民の福祉、そういう面でどれだけプラスの効果が出たのか、その結果をきちんと示せというお話もありましたので、そのことはしっかり受け止めて、何とかそれに答えられるように頑張っていきたいと思っています。齋藤委員からは、市民との協働をもっとうまくやる話がありまして、特に旧割烹小幡の前の活動に対して障がい者の皆さんから一生懸命やっていただいて、市民の皆さんにも喜ばれたと思っておりますし、大変感謝申し上

げたいと思います。先ほどもありましたが、市民の皆さんからやってもらわなければならないことはかなりあります。観光も言われておりました、若者も定着もありました。地域と一緒に考えていかなければならないというお話もありました。そういう意味では行政だけでは何ともならないという場面がかなりあると思っています。ですから、ぜひ市民の皆さんを巻き込んで、行動してもらえるような、そのためには行政がどういう状況かを理解していただかなければならないので、そのことについてはしっかりしていきたいと思っています。それから収納率向上の話もありました。収納率を上げる為に、コンビニ収納のシステムを入れるためにお金をかけています。そういうところも評価しないと、収納率が上がったから良かったという話にはならないですよ。トータルとしてきちんと評価をする必要があるでしょう。それからマップですが、それぞれ観光物産協会、商工会、行政がばらばらだという話、それもその通りでございます。酒田は観光という話もありましたが、私、個人的には観光を進めるといのは、全く完成されていないと思っています、観光にしても市民協働にしても、きちんと旗を振って、道しるべを示す機能がまだ確立されていないと思っています。その辺は真剣に取り組んでまいりたいと思います。病院のこともありました、ライトアップの話もありました、駅前もありましたね。特にこれからの話にも関係するんですが、スクラップ&ビルドの話もありました。本間委員からはもっと厳しく、行政をスリムにしろということだと思いますが、そのことについては、しっかり受け止めて取り組みますが、それをやればやるほど、たとえば医療機関もそうですが、公共施設、これを使われていないものは全部なくしていかなければならないですね。ところが、その話を具体的に持っていきますと、そこを使っている人たちから反対の火の粉が上がってくるわけです。それをどうやって説得していくか、その作業も酒田市の公共施設の適正化、それが中核でありまして、市民の理解をいただきながら皆さん納得していただいて進めなくてはならない、それが行政の難しいところです。十分な説明責任を果たしながら着実に実行していきたいと思っています。財政展望のことを指摘された委員の皆さんがいらっしゃいましたが、今までは、このままでは赤字になって、市の財政は破綻するという財政展望を示しておりました。先の委員会で、そうならないためにどういう財政計画で進めるかという指針をしっかりと出さなくてはならないと、今年度中には、財政が継続できるようなまちづくりをするためには、どういう財政計画を持つべきか、どういう財政指標で財政編成をするのか、なるべくわかりやすいデータを出したいと、作業を指示しているところですが、市民の皆さんからわかっただけのような、きちんとした分析を踏まえた計画作りはなかなか大変なもので、少し時間をいただければありがたいと思っています。いずれにしても、皆さんから頂いた意見はごもっともと思っていますので、意見を踏まえて、そのことは新しい総合計画の中にも反映できるような取り組みを進めてまいりたいと思っていますので、色々な場面でご意見をいただければと思います。本当にありがとうございました。大変参考になりました。

○阿部直善会長 ただいま皆さんからいただいたご意見、ご指摘について、市長からひと

とおりの考え方を話していただきました。今市長がおっしゃったことについて、聞きたいこともあるかもしれませんが、総合計画に入っていく部分もありましたし、また今後の我々が策定に関わった計画の中で反映させていかなければならないことが沢山あるわけですので、そちらでしっかり取り入れてもらいたいと申し上げて次に移ります。

-----

## (2) 酒田市公共施設の適正化について

- 阿部直善会長 それでは、酒田市公共施設の適正化について、事務局から説明をお願いします。できれば簡潔をお願いします。
- 熊谷智主幹 (資料に基づき説明)
- 阿部直善会長 ありがとうございます。今日の扱いというのは、基本的にはこれからこういう計画があるということを皆さんで共有することが主眼でよろしいですか。
- 熊谷智主幹 ただいま、会長がおっしゃったとおり、今日は酒田市の公共施設の取組みの状況、現在の状況を説明させていただくとともに、現在、市民アンケートを取らせていただいています。集約が8月末ぐらいですが、その結果もお示ししながら本委員会の中で議論いただきたいと思っておりますし、またお気づきの点などあれば、行革室にご連絡いただきたいと思っております。
- 阿部直善会長 そういふことで、今日どうしても確認したいことがあればお受けします。
- 大壁洋平委員 確認ですが、7ページの子育て支援施設の亀ヶ崎学区学童保育所というのは商業高校跡地のことでしょうか。
- 熊谷智主幹 そのとおりです。
- 阿部直善会長 それではないようですので、今、説明ありましたように、市民アンケートも集約され、また公表されると思いますから、それも踏まえて今日配付された資料もご覧いただいて、この場でなくても、事務局の方へ行っていただければと思います。それではその他で皆さんからなければ協議は終了したいと思います。時間が長くなってしまいました。皆さんからは積極的なご意見をいただきましてありがとうございました。事務局にお返しします。

~~~~~

5. 閉 会

- 金野洋和次長 委員の皆さんからも長時間の協議を賜りまして、本当にありがとうございました

いました。本日の内容につきましては、会議録を作成して皆様に送付したいと思います。
なお、次回の日程ですが11月下旬から12月上旬で予定をさせていただきたいと思
います。ご承知おきくださいますようお願いいたします。以上をもちまして、平成28年度
第1回行財政改革推進委員会を閉会します。

午後3時50分 閉 会